

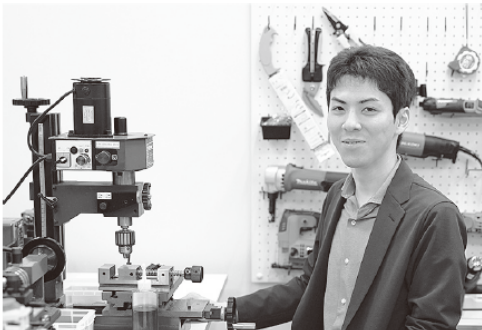
インタビュー

(株)New Innovations (東京都江東区)は、2018年に設立されたスタートアップ企業。先端技術を高度に融合した自動化・省人化ソリューションやAIカフェロボットなどを提供しており、現在、大手企業とのプロジェクトも進めている。今回、同社の創業者で代表取締役CEO兼CTOの中尾 溪人氏に話を伺った。

——ご略歴から。

(株)New Innovations
代表取締役CEO兼CTO

中尾 溪人 氏



中尾 幼少期からものづくりが好きで、小学生でロボットの開発を開始し、14歳で自律型ロボットの国際的な研究競技大会「ロボカップ ジュニア」の世界大会にて入賞した。そして15歳から開始したシステム開発事業

校在学中の18年に当社New Innovationsを設立した。「人類を前に進め、人々を幸せにする」ことを企業理念に掲げ、「OMO」(Online Merges with Offline)に関するサービスやソリューションを主に提供している。

OMOとは、中尾 様々な業界や業や事業展開も含めてワンストップで支援する取り組みだ。こうした取り組みは実証フェーズで終わってしまっても散見されるが、当社のOMOは実導入や大規模展開を見据えた設計や仕様であることが特徴で、例えば、筐体もコンパクトで、大規模な工事なしで設置でき、1台あたりの価格も

先端技術で自動化を総合的に支援

飲食・小売を中心に展開を加速

で取引先が300を超えたことをきっかけに、高種が抱える課題に対して、AI、ロボティクス、クラウド、オンライン制御といった様々なハードウェアとソフトウェアを融合し、従来人が行っている工程を自動化・省人化するソリューションを開発するとともに、コンサルティング

500万〜1000万円に抑える。OMOによって、人は創造性やコミュニケーションが求められる付加価値の高い仕事に従事でき、企業の生産性向上や収益増加、顧客体験の向上などにも寄与する。これまでにブルーボトルコーヒージャパンや外資系ブランドなどで採用された実績を有する。



「root C」AIカフェロボット

発が加速するだろう。また、今後の事業規模拡大を見据えた際に、電子デバイスなどの部品・部材を安定的に供給いただける方と連携していきたいと考えている。

——直近に実施されたことは。中尾 事業拡大とビジネスから研究開発、製造までの連携強化を目的とし、3月に本社を増床し「東京研究開発センター」を新設した。また、4月に第三者割当増資や金融機関からの融資などによるシリーズAラウンドで54億1000万円の資金調達を実施した。調達した資金を活用し、root Cの事業拡大、試作評価設備・生産設備の拡充、OMOソリューションの新規展開などを進めていく。人材採用にも投資する予定で、当社の事業に共に取り組んでいただける方も募っている。

——今後の展開は。中尾 OMOに関して、飲食業と小売業で合計7件のプロジェクトが進んでおり、守秘義務の関係で社名はまだ言うことができないが、大手フードカンパニーやカフェチェーンと連携している。飲食業向けに動いている3件のプロジェクトの量産台数を合計すると、国内外約10万店の規模となる見込みだ。その第1段階として、まずは23年秋ごろから国内の数店から10店程度で試験を開始する予定だ。

OMO事業はあらゆる業界・領域を対象としているが、今後3〜5年間は飲食業と小売業を中心に事業を進めていく。それ以降は介護や物流など様々な業界に向けたサービス展開も想定しており、そつした取り組みを進めることで、あらゆる業界を無人化していきたい。当社の理念である「人類を前に進め、人々を幸せにする」ことを実現していきたいと思う。

(聞き手・副編集長 浮島哲志)